

# 東京都下水道局管きょ設計CADデータ標準仕様(案)

## 図面の簡素化

令和2年5月

東京都下水道局

## 東京都下水道局管きょ設計 CAD データ標準仕様(案)の概説

1. 東京都下水道局管きょ設計 CAD データ標準仕様(案)は、下記に示す 3 つの仕様書及びガイドラインで構成している。これらの内、本編は「図面の簡素化」編である。

- 管きょ設計 CAD 製図基準

国交省の CAD 製図基準(案)に準拠し、CAD 図を電子納品する場合のファイル名称の付け方やレイヤ構造などを記述している。

- データ交換標準仕様定義

設計 CAD の仕組み、データ交換のためのデータ構造を記述している。

- 図面の簡素化

従来の紙による管きょ設計製図から CAD で製図を行う場合の変更内容及び図面表記の簡素化内容を記述している。

- 図面の簡素化に関する運用ガイドライン

データ交換用電子平面図、系統図、線路詳細図および帳票などを CAD で作成するときの統一的な運用を図ることを目的に作成したものです。

2. 東京都下水道局管きょ設計 CAD データ標準仕様(案)は、東京都下水道局における下水道管きょ設計の CAD データ利用に関する仕様を定めたもので、下水道管きょの設計成果時、工事発注時、完成図書作成時を対象とする。

利用にあたっては東京都下水道管きょの設計業務及び以下の基準等の仕様で使用されている用語やプログラムの記述要領を理解されていることを前提とする。

- (1) 土木工事標準仕様書（東京都下水道局）
- (2) 設計委託標準仕様書（管路用）（東京都下水道局）
- (3) 東京都下水道設計標準（東京都下水道局）
- (4) 管きょ設計の手引き（東京都下水道局）
- (5) 再構築設計マニュアル（管路編）（東京都下水道局）
- (6) 管きょ再構築設計の手引き（東京都下水道局）
- (7) 管路内面被覆工法(反転、形成工法)設計の手引き（東京都下水道局）
- (8) 再構築工事／改良工事しゅん工図作成解説書（東京都下水道局）
- (9) JIS A 0101:2003: 土木製図通則（日本規格協会）
- (10) 土木製図基準（土木学会）
- (11) CAD製図基準(案)（平成20年5月 国土交通省）
- (12) CAD製図基準に関する運用ガイドライン(案)（平成21年6月 国土交通省）
- (13) 国土交通省の「電子納品に関する要領・基準」
- (14) 日本建設情報総合センター (JACIC)作成のSXF Ver3.0

## 目 次

1. 簡素化の基本方針	1
2. 図面の様式	1
2.1 データ交換用電子平面図	1
2.2 系統図	3
2.3 平面図 (線路詳細図)	5
2.4 縦断面図 (線路詳細図)	7
2.5 帳票	9
2.5.1 工事内管きょ集計表	9
2.5.2 占用完了数量集計表	13
2.5.3 工事内管きょ番号表	17
2.5.4 工事内人孔番号表	20
2.5.5 柵・取付管一覧表	23
2.6 タイトル	27
2.6.1 表題欄	27
2.6.2 占用番号	28
2.6.3 水準基標	28
3. 業務履歴管理データ	29



## 1. 簡素化の基本方針

1. 図面の簡素化は、設計、工事、工事完了等の各作業工程により作成されるデータ交換用電子平面図を基に、CAD ソフトウェアで自動作成することが可能な系統図、線路詳細図および帳票を対照とし、その様式の作成にあたっては以下の方針を基本とする。
  - 1) 国土交通省の電子納品に関する要領・基準の「CAD 製図基準(案)」および「CAD 製図基準に関する運用ガイドライン(案)」に準拠した様式とする。
  - 2) CAD ソフトウェアの特性及び自動図化に適した図面様式とする。
  - 3) CAD ソフトウェアにより自動図化した項目の内、基本的な記号、名称および数値については図面間の自動チェックが行える様式とする。
  - 4) 設計、工事、工事完了等の各作業工程により作成する図面の様式を統一する。

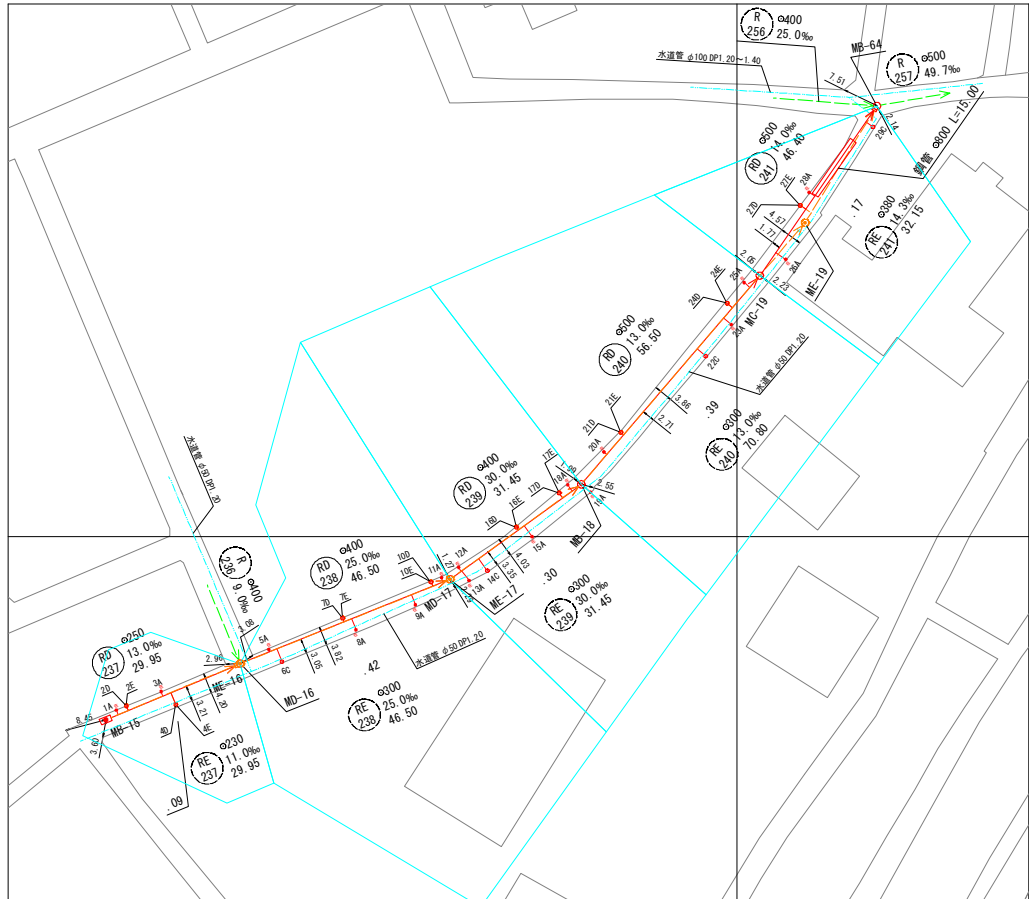
## 2. 図面の様式

### 2.1 データ交換用電子平面図

1. データ交換用電子平面図は、管きよの台帳「SEMIS」(下水道台帳情報システム)から切出しされた施設情報(属性情報)を保持した台帳図(下水道施設および地形図)を基に、設計、工事、工事完了等の各作業工程による図形(幾何図形)および属性情報(属性付加機構)を追加または変更した、データリサイクルを実現する平面図とする。
2. データ交換用電子平面図には、路線、人孔、柵、取付管、鞘管、地下埋設物、区画線、オフセット、道路幅員、地形図および「SEMIS」の図面切出枠を記載する。
  - 1) 路線、人孔、柵、取付管、鞘管、地下埋設物、区画線、オフセット、道路幅員、地形図および「SEMIS」の図面切出枠の各図形には、CAD ソフトウェアにより、SXF(レベル 2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
  - 2) 工事完了時の作業工程で、登録人孔番号(SEMIS で管理する施設番号)の設定が必要な人孔に対して、「SEMIS」の仕様に沿った人孔番号を、CAD ソフトウェアにより自動設定することが可能な属性情報を保持する。
  - 3) 系統図および線路詳細図内の平面図を作成する上で、CAD ソフトウェアにより自動作成することが可能な図形を記載する。
  - 4) 系統図、線路詳細図および帳票を作成する上で、CAD ソフトウェアにより自動作成することが可能な属性情報を保持する。
3. CAD ソフトウェアにより自動作成された系統図、線路詳細図および帳票内の図形(基本的な記号、名称および数値)と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
4. データ交換用電子平面図内の図形と属性情報は対になっているので、属性情報を常に正とし、属性情報が設定または更新された場合には、CAD ソフトウェアでは、この属性情報を元に各図形を自動的に作成および更新するものとする。

【解説】

a) データ交換用電子平面図の様式を、図2-1-1に示す。



図面切出枠  
(SEMIS切り出し枠)

図 2-1-1 データ交換用電子平面図の様式

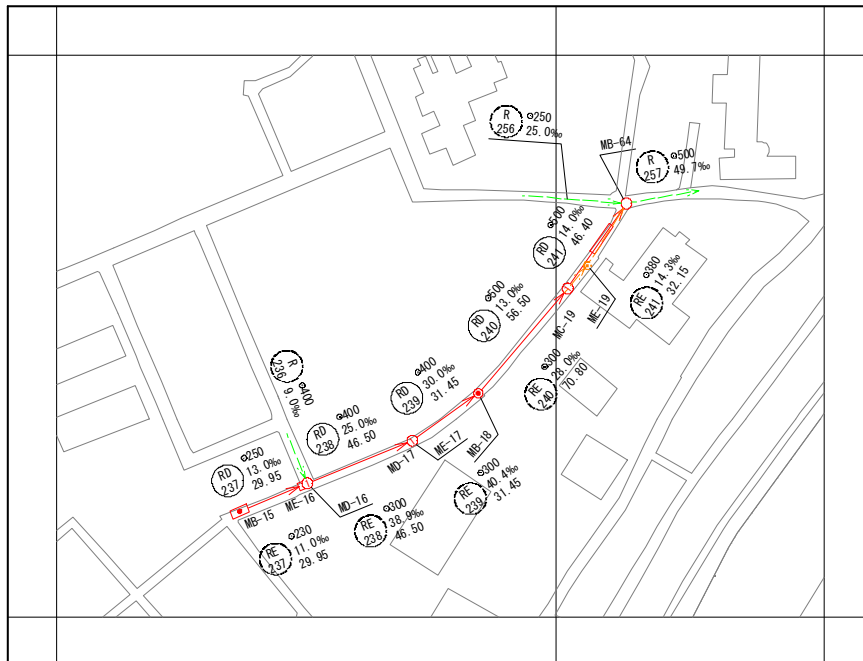
- b) データ交換用電子平面図の尺度は、1：500とする。
- c) データ交換用電子平面図の方位は、図面の上を北方向として作成する。また、施工区域が離れている2箇所以上の区域のデータ交換用平面図を作成する場合は必ず方位を揃える。

## 2.2 系統図

1. 系統図は、データ交換用電子平面図内の路線、人孔、鞘管、図面切出枠および地形図を基に作成する。
2. 系統図には、路線、人孔、鞘管、地形図、作図枠および図枠、また、データ交換用電子平面図の基になる台帳図の切り出しを行ったアプリケーション名および切り出し年月を記載する。
  - 1) 系統図に記載する路線、人孔、鞘管、地形図、作図枠、図枠、台帳図の切り出しを行ったアプリケーション名および切り出し年月、また、地形図は、データ交換用電子平面図内の図形および属性情報を基に、CAD ソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) データ交換用電子平面図内の図形および属性情報により自動作成する作図項目以外は、CAD ソフトウェアにより作図する。
3. CAD ソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な記号、名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な記号、名称および数値)に対して、CAD ソフトウェアにより、SXF(レベル 2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認、図面間の自動チェックおよび図面間の編集を容易にする。

### 【解説】

- a) 系統図の様式を、図2-2-1に示す。



SEMIS 2004/02

図 2-2-1 系統図の様式

- b) 系統図の尺度は、1：2000とする。
- c) 系統図の方位は、図面の上を北方向として作成する。また、施工区域が離れている2箇所以上の区域の系統図を作成する場合は必ず方位を揃える。
- d) 系統図の路線は、データ交換用電子平面図に記載されている路線記号、副管記号、振分記号および路線引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- e) 系統図の人孔は、データ交換用電子平面図に記載されている人孔記号および人孔引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- f) 系統図の鞘管は、データ交換用電子平面図に記載されている鞘管記号および鞘管引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- g) 作図枠、図枠、台帳図の切り出しを行ったアプリケーション名および切り出し年月は、データ交換用電子平面図に記載されている図面切出枠の図形および属性情報を基に作成する。
- h) 系統図の地形図(方位、町丁名番地、街路、河川・橋梁、公共施設、その他コントロールとなる地物情報)は、データ交換用電子平面図に記載されている地形図を基に作成する。



## 2.3 平面図 (線路詳細図)

1. 平面図は、データ交換用電子平面図内の路線、人孔、柵、取付管、鞘管、地下埋設物、オフセット、道路幅員および地形図を基に作成する。
2. 平面図には、路線、人孔、柵、取付管、鞘管、地下埋設物、オフセット、道路幅員、地形図および方位記号を記載する。
  - 1) 平面図に記載する路線、人孔、柵、取付管、鞘管、地下埋設物、オフセット、道路幅員および地形図は、データ交換用電子平面図内の図形および属性情報を基に、CAD ソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) データ交換用電子平面図内の図形および属性情報により自動作成する作図項目以外は、CAD ソフトウェアにより作図する。
3. CAD ソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な記号、名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な記号、名称および数値)に対して、CAD ソフトウェアにより、SXF(レベル 2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. 従来、平面図に記述していた柵および取付管に関する工事内容の記載は省略し、新たに追加した柵・取付管一覧表に柵および取付管毎に関連する作図項目を記載することにより、平面図の簡素化を行うとともに、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認、図面間の自動チェックおよび図面間の編集を容易にする。

### 【解説】

- a) 平面図の様式を、図2-3-1に示す。

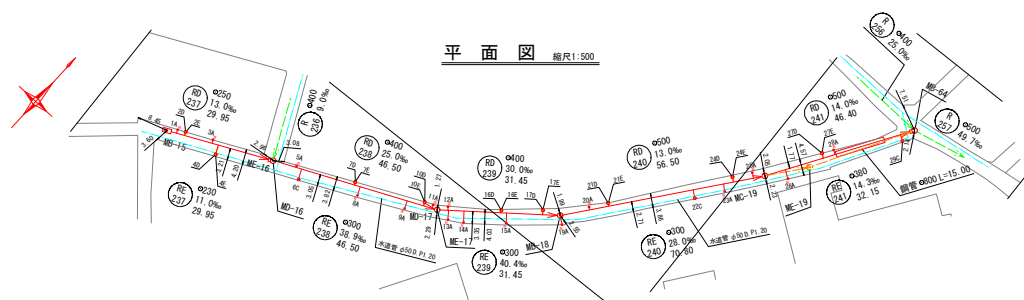


図 2-3-1 平面図(線路詳細図)の様式

- b) 平面図の尺度は、データ交換用電子図と同じ1:500とする。
- c) 平面図は、路線の起点を左に、終点を右にする事を原則とし、併記する縦断面図に沿ったかたちで、データ交換用電子平面図内の図形および属性情報を基に、CADソフトウェアにより作成する。

- d) 平面図の路線は、データ交換用電子平面図に記載されている路線記号、副管記号、振分記号および路線引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- e) 平面図の人孔は、データ交換用電子平面図に記載されている人孔記号および人孔引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- f) 平面図の柵は、データ交換用電子平面図に記載されている柵記号および柵引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- g) 平面図の取付管は、データ交換用電子平面図に記載されている取付管記号の図形および属性情報を基に作成する。
- h) 平面図の鞘管は、データ交換用電子平面図に記載されている鞘管記号および鞘管引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- i) 平面図の地下埋設物は、データ交換用電子平面図に記載されている埋設物記号および埋設物引出情報の図形および属性情報を基に作成する。
- j) 平面図のオフセットは、データ交換用電子平面図に記載されているオフセットの図形および属性情報を基に作成する。
- k) 平面図の道路幅員は、データ交換用電子平面図に記載されている道路幅員の図形および属性情報を基に作成する。
- l) 平面図の地形図(方位、町丁名番地、街路、河川・橋梁、公共施設、その他コントロールとなる地物情報)は、データ交換用電子平面図に記載されている地形図を基に作成する。

## 2.4 縦断面図 (線路詳細図)

1. 縦断面図は、データ交換用電子平面図内の路線、人孔および地下埋設物を基に作成する。
2. 縦断面図は、帯部、DL線下部、DL線上部、旗上げ部、製図領域部および表題欄部に、表 2-4-1 に示す作図項目を記載する。

表 2-4-1 縦断面図の作図項目

	作 図 項 目	自動作成	整合性の確認
帯部	提案路線の縦断関係を示す地盤高、土被り、更新管の管底高、既設管の管底高	○	○
DL線下部	提案路線の路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および延長)	○	○
DL線上部	地盤線	○	—
	提案路線の更新管路線および既設管路線	○	—
	流入および流出する接続路線の位置、接続路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および管底高)	○	○
	施工内容(舗装、更新管および既設管の施工内容等)	○	—
	地下埋設物との交差位置および種類	○	—
旗上げ部	人孔旗上情報(人孔番号、人孔種別、人孔深、副管タイプ、副管高さおよび副管径等)	○	○
製図領域部	工事の起終点およびその前後の関連性	—	—
	ボーリング柱状図等	—	—
表題欄部	縦断面図に記述した区間全ての提案路線の作図路線情報(設計区分・路線番号)	○	○

- 1) 縦断面図に記載する表 2-4-1 に示す帯部、DL線下部、DL線上部、旗上げ部および表題欄部の作図項目は、データ交換用電子平面図内の図形および属性情報を基に、CADソフトウェアにより自動作成する。
- 2) データ交換用電子平面図内の図形および属性情報により自動作成する作図項目以外は、CADソフトウェアにより作図する。
3. CADソフトウェアにより自動作成する表 2-4-1 に示す帯部、DL線下部、DL線上部(接続路線に関する作図項目のみ)、旗上げ部、表題欄部の作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CADソフトウェアにより、SXF(レベル 2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. 従来、縦断面図に記述していた人孔に関する工事内容の内、帳票に記載する工事内容を縦断面図から省略することにより、縦断面図の簡素化を行うとともに、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。

【解説】

a) 平面図(線路詳細図)の様式を、図2-4-1に示す。

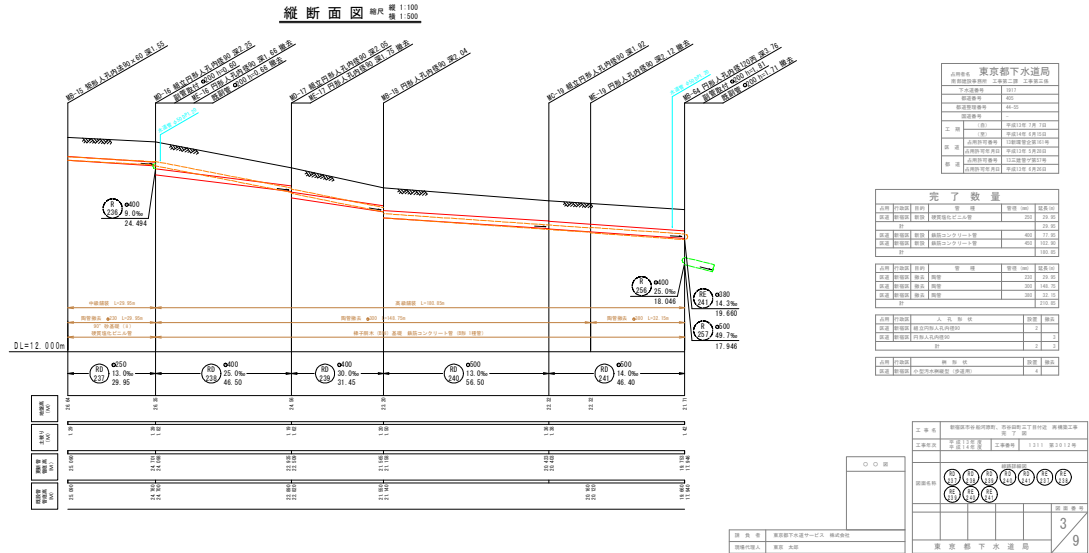


図 2-4-1 縦断面図(線路詳細図)の様式

- b) 縦断面図の尺度は、縦を1:100とし、横を平面図と同じ1:500とする。
- c) 帯部に記載をする提案路線の縦断関係を示す地盤高、土被り、更新管の管底高、既設管の管底高は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。
- d) DL線下部に記載をする提案路線の路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および延長)は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。
- e) DL線上部に記載をする地盤線は、データ交換用電子平面図に記載されている路線および人孔の属性情報を基に作成する。
- f) DL線上部に記載をする提案路線の更新管路線および既設管路線は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。
- g) DL線上部に記載をする流入および流出する接続路線の位置、接続路線情報(設計区分・路線番号、管径、勾配および管底高)は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。
- h) DL線上部に記載をする施工内容(舗装、更新管および既設管の施工内容等)は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に作成する。
- i) DL線上部に記載をする地下埋設物との交差位置および種類は、データ交換用電子平面図に記載されている路線および地下埋設物の属性情報を基に作成する。
- j) 旗上げ部に記載をする人孔旗上情報(人孔番号、人孔種別、人孔深、副管タイプ、副管高さおよび副管径等)は、データ交換用電子平面図に記載されている路線および人孔の属性情報を基に作成する。
- k) 表題欄部に記載をする縦断面図に記載した区間全ての提案路線の作図路線情報(設計区分・路線番号)は、業務履歴管理データに記述されている図面情報を基に作成する。

## 2.5 帳票

### 2.5.1 工事内管きょ集計表

1. 工事内管きょ集計表は、データ交換用電子平面図内の路線を基に作成する。
2. 工事内管きょ集計表には、「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エア抜管」、「共同溝」、「放流渠」、「仮取り入れ管」および「撤去管」の 15 種類に分類し、この分類を「管渠の種類」として集計表を作成する。
  - 1) 工事内管きょ集計表は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に、CAD ソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) CAD ソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、工事内管きょ集計表内の文字は全て横書きとする。
3. CAD ソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CAD ソフトウェアにより、SXF(レベル 2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. 従来、工事内管きょ集計表に記述していた「管渠の種類」(従来は「管渠の名称」)に該当する提案路線(設計区分・路線番号)の記載は省略し、新たに追加した工事内管きょ番号表に提案路線毎に関連する作図項目を記載することにより、工事内管きょ集計表の簡素化を行うとともに、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。
  - 1) 工事内管きょ番号表に提案路線毎に対して記載した「管渠の種類」、「施工年度」、「管種」、「管径」および「延長」により、工事内管きょ集計表に記載する延長および集計延長の整合性の確認を容易にする。

【解説】

a) 工事内管きよ集計表の様式を、図2-5-1に示す。

工事内管渠集計表			
管渠の名称	施工年度	管径 (mm)	延長 (m)
既設活用管渠	-	200	10.15
既設活用管渠	-	300	72.90
既設活用管渠	-	380	27.80
計			110.85
更生管渠	1936	260 (300)	36.00
更生管渠	1936	410 (450)	85.30
小計			121.30
更生管渠	1937	280 (300)	34.50
小計			34.50
更生管渠	1959	210 (230)	33.05
更生管渠	1959	240 (260)	30.00
更生管渠	1959	280 (300)	41.90
小計			104.95
更生管渠	1962	260 (300)	17.05
小計			17.05
合計			277.80
布設替管渠	-	250	131.75
布設替管渠	-	300	107.30
布設替管渠	-	400	139.35
布設替管渠	-	450	81.50
小計			459.90
増補管	-	1000	10.20
小計			10.20
バイパス管	-	1200	12.40
小計			12.40
総計			871.15
撤去管	1930	700	11.00
撤去管	1930	800	23.00
小計			34.00
撤去管	1936	450	25.85
撤去管	1936	500	34.40
撤去管	1936	800	48.60
小計			108.85
撤去管	1937	600	75.90
小計			75.90
撤去管	1959	700	60.20
撤去管	1959	800	27.40
小計			87.60
撤去管	1962	800	42.70
小計			42.70
合計			349.05

図 2-5-1 工事内管きよ集計表の様式

- b) 工事内管きょ集計表は、図2-5-2に示す情報行(管渠の種類、施工年度、内径または外径、更生前内径または外径および延長)、集計行(小計延長、合計延長および総計延長)により構成される。

管渠の種類	施工年度	内径 外径	更生前内径 更生前外径	延長
更生管渠	1959	210	(230)	33.05
更生管渠	1959	240	(260)	30.00
更生管渠	1959	280	(300)	41.90
小計				104.95
更生管渠	1962	260	(300)	17.05
小計				17.05
合計				277.80
布設替管渠	-	250		131.75
布設替管渠	-	300		107.30
布設替管渠	-	400		139.35
布設替管渠	-	450		81.50
小計				459.90
増補管	-	1000		10.20
小計				10.20
バイパス管	-	1200		12.40
小計				12.40
総計				871.15

Callouts in the diagram:

- 行 (情報行) points to the first four rows of the table.
- 行 (集計行:小計) points to the '小計' row for the first section.
- 行 (集計行:合計) points to the '合計' row.
- 内径 points to the '内径' column.
- 行 (集計行:総計) points to the '総計' row.

図 2-5-2 工事内管きょ集計表の概要図

- c) 15種類に分類する「管渠の種類」は、設置区分、布設替の有無および管渠機能により、表 2-5-1とする。

表 2-5-1 管渠の種類

コード	管渠の種類	設置区分	布設替	管渠機能
1	既設管活用管渠	既設活用	—	—
2	更生管渠	修正(更生)	—	—
3	布設替管渠	新設	有	—
4	雨水吐管	新設	無	雨水吐管
5	増補管	新設	無	増補管

コード	管渠の種類	設置区分	布設替	管渠機能
6	バイパス管	新設	無	バイパス管
7	光ファイバーケーブル連絡管	新設	無	光ファイバーケーブル連絡管
8	共同溝	新設	無	共同溝
9	放流渠	新設	無	放流渠
10	仮取り入れ管	新設	無	仮取り入れ管
11	撤去管	撤去	—	—
14	新設管渠	新設	無	機能なし
15	光ファイバーケーブルアプローチ管	新設	無	光ファイバーケーブルアプローチ管
16	光ファイバーケーブル民間用アプローチ管	新設	無	光ファイバーケーブル民間用アプローチ管
17	エアージャクト管	新設	無	エアージャクト管



## 2.5.2 占用完了数量集計表

1. 占用完了数量集計表は、データ交換用電子平面図内の路線、人孔および柵を基に作成する。
2. 占用完了数量集計表は、新設または修正(更生)された路線の延長を集計した「再構築管渠占用完了数量集計表」、撤去された路線の延長を集計した「撤去管渠占用完了数量集計表」、新設または撤去された人孔の箇所数を集計した「人孔占用完了数量集計表」および新設または撤去された柵の箇所数を集計した「取付柵占用完了数量集計表」の4タイプに分けて作成する。
  - 1) 占用完了数量集計表は、データ交換用電子平面図に記載されている路線、人孔および柵の属性情報を基に、CADソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) CADソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、占用完了数量集計表内の文字は全て横書きとする。
3. CADソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 3) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CADソフトウェアにより、SXF(レベル2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。

### 【解説】

- a) 占用完了数量集計表の様式を、図2-5-3に示す。

占用	行政区	人孔形状	設置	撤去
国道	新宿区	組立円形人孔内径120A	1	
計			1	0
都道	新宿区	組立円形人孔内径90	2	
都道	新宿区	楕円形人孔内径120×90		1
計			2	1
区道	新宿区	組立円形人孔内径90	8	
区道	新宿区	組立円形人孔内径120A	2	
区道	新宿区	円形人孔内径90		5
区道	新宿区	円形人孔内径120丙		1
計			10	6

占用	行政区	柵形状	設置	撤去
都道	新宿区	小型汚水柵縦型(歩道用)	2	
都道	新宿区	小型汚水柵縦型(車道用)	1	
計			3	0
区道	新宿区	小型汚水柵縦型(歩道用)	14	
区道	新宿区	小型汚水柵縦型(車道用)	1	
区道	新宿区	汚水柵型幅30		4
計			15	4

完了数量					
占用	行政区	目的	管種	管径(mm)	延長(m)
区道	新宿区	新設	硬質塩化ビニル管	250	131.75
区道	新宿区	新設	硬質塩化ビニル管	300	107.30
計					239.05
区道	新宿区	新設	鉄筋コンクリート管	400	139.35
区道	新宿区	新設	鉄筋コンクリート管	450	12.40
計					151.75
区道	新宿区	改良	製管工法	210	33.05
区道	新宿区	改良	製管工法	260	53.05
区道	新宿区	改良	製管工法	410	85.30
計					171.40
区道	新宿区	改良	反転・形成工法	240	30.00
計					30.00

占用	行政区	目的	管種	管径(mm)	延長(m)
区道	新宿区	撤去	陶管	230	101.75
区道	新宿区	撤去	陶管	250	60.20
計					161.95
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	350	27.40
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	450	152.55
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	520	48.60
計					229.55

図 2-5-3 占用完了集計表の様式

b) 占用完了数量集計表は、図2-5-4に示す「再構築管渠占用完了数量集計表」、「撤去管渠占用完了数量集計表」、「人孔占用完了数量集計表」および「取付柵占用完了数量集計表」の4タイプの完了数量集計表により構成される。

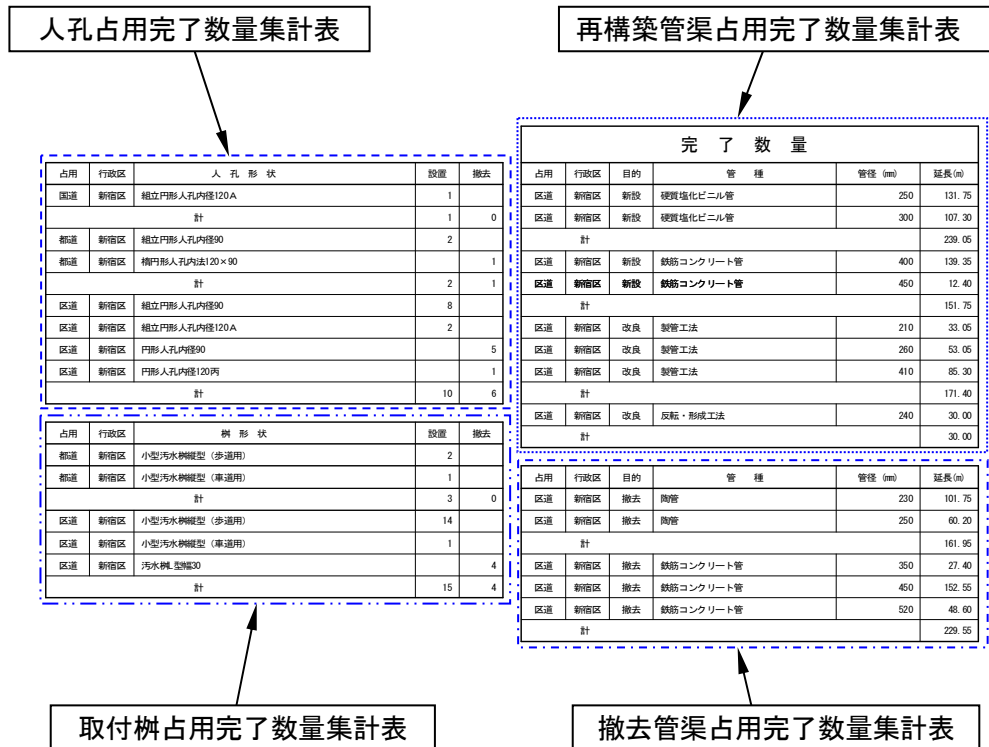


図 2-5-4 占用完了数量集計表の概要図

c) 再構築管渠占用完了数量集計表は、図2-5-5に示す情報行（占用・行政区・管渠の目的・管種・更生工法・内径または外径・延長）、集計行（合計延長）により構成される。

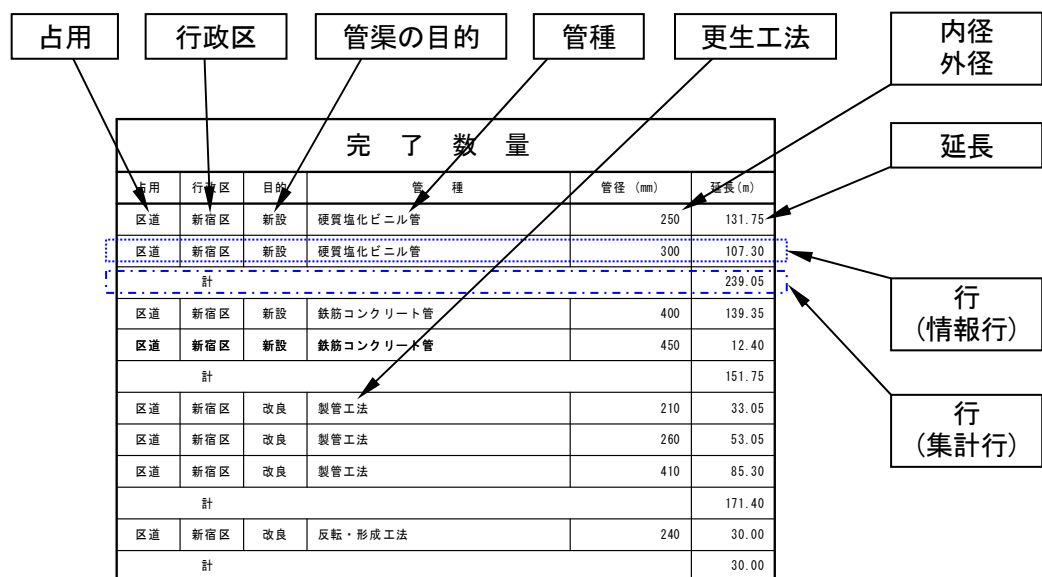


図 2-5-5 再構築管渠占用完了数量集計表の概要図

- d) 撤去管渠占用完了数量集計表は、図2-5-6に示す情報行（占用・行政区・管渠の目的・管種・内径または外径・延長）、集計行（合計延長）により構成される。

占用	行政区	目的	管種	管径 (mm)	延長 (m)
区道	新宿区	撤去	陶管	230	101.75
区道	新宿区	撤去	陶管	250	60.20
計					161.95
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	350	27.40
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	450	152.55
区道	新宿区	撤去	鉄筋コンクリート管	520	48.60
計					229.55

図 2-5-6 撤去管渠占用完了数量集計表の概要図

- e) 「管渠の目的」は、設置区分により、表2-5-2とする。

表 2-5-2 管きよの目的

コード	管渠の目的	設置区分
2	改造	修正(更生)
3	新設	新設
5	撤去	撤去

- f) 人孔占用完了数量集計表は、図2-5-7に示す情報行（占用・行政区・人孔形状・設置・撤去）、集計行（設置合計・撤去合計）により構成される。

占用	行政区	人孔形状	設置	撤去
国道	新宿区	組立円形人孔内径120A	1	
計			1	0
都道	新宿区	組立円形人孔内径90	2	
都道	新宿区	楕円形人孔内径120×90		1
計			2	1
区道	新宿区	組立円形人孔内径90	8	
区道	新宿区	組立円形人孔内径120A	2	
区道	新宿区	円形人孔内径90		5
区道	新宿区	円形人孔内径120丙		1
計			10	6

図 2-5-7 人孔占用完了数量集計表の概要図

g) 取付柵占用完了数量集計表は、図2-5-8に示す情報行（占用・行政区・柵形状・設置・撤去）、集計行（設置合計・撤去合計）により構成される。

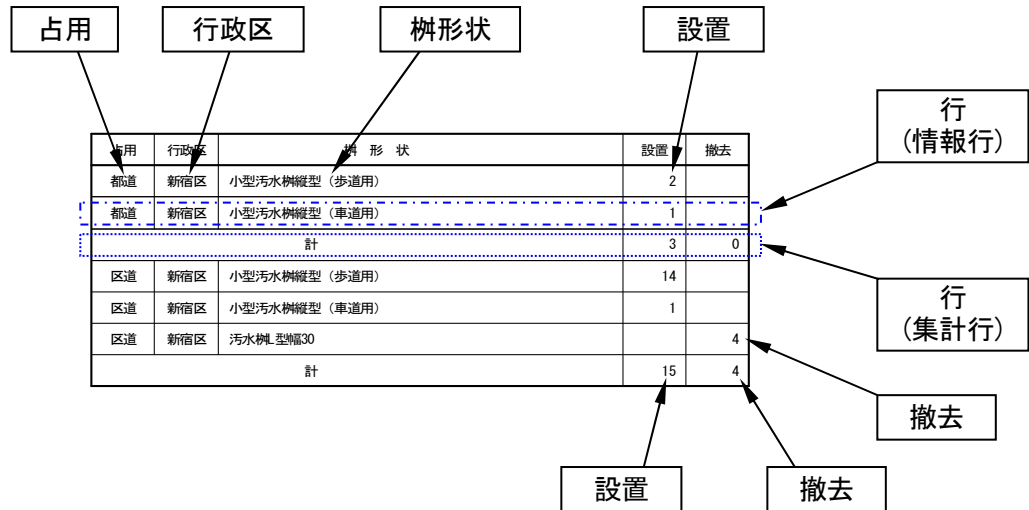


図 2-5-8 取付柵占用完了数量集計表の概要図

### 2.5.3 工事内管きょ番号表

1. 工事内管きょ番号表は、工事内管きょ集計表の簡素化に伴い、新たに追加した帳票とし、データ交換用電子平面図内の路線を基に作成する。
2. 工事内管きょ番号表は、「管渠の種類」を「既設管活用管渠」、「更生管渠」、「布設替管渠」、「新設管渠」、「雨水吐管」、「増補管」、「バイパス管」、「光ファイバーケーブル連絡管」、「光ファイバーケーブルアプローチ管」、「光ファイバーケーブル民間用アプローチ管」、「エア抜管」、「共同溝」、「放流渠」および「仮取り入れ管」に分類されている再構築管きょによる工事内管きょ番号表、「管渠の種類」を「撤去管」に分類されている撤去管きょによる工事内管きょ番号表の2タイプを作成する。
  - 1) 工事内管きょ番号表は、データ交換用電子平面図に記載されている路線の属性情報を基に、CADソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) CADソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、工事内管きょ番号表内の文字は全て横書きとする。
3. CADソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CADソフトウェアにより、SXF(レベル2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. 工事内管きょ番号表は、路線番号、管渠の種類(区分)、施工年度、管種、管径(内径または外径)、延長および工事内容を記載する。
  - 1) 工事内管きょ番号表は、一行にひとつの提案路線の情報を記載することにより、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。
  - 2) 工事内管きょ番号表に記載する提案路線毎の「管渠の種類」、「施工年度」、「管種」、「管径」および「延長」により、工事内管きょ集計表に記載した延長および集計延長の整合性の確認を容易にする。
  - 3) 工事内管きょ番号表に記載する工事内容は、基礎種類、継手形状、管渠強度および更生工法に関する情報を記載する。

【解説】

a) 工事内管きよ番号表の様式を、図2-5-9に示す。

工事内管渠番号表(再構築下水道管渠)						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径(mm)	延長(m)	工事内容
RD-231	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	250	30.00	90°砂基礎(ii)
RD-232	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	250	30.20	90°砂基礎(ii)
RB-233	更生管渠	1959	陶管	280	41.90	反転・形成工法
RB-234	更生管渠	1959	陶管	210	33.05	反転・形成工法
RB-235	更生管渠	1959	陶管	240	30.00	反転・形成工法
RA-236	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	27.40	
RD-237	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	250	29.95	90°砂基礎(ii)
RA-238	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	46.50	
RA-239	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	400	31.45	
RA-240	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	500	56.50	
RA-241	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	500	46.40	
RA-242	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	300	50.00	
RA-243	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	350	27.80	
RA-244	既設活用管渠	1965	鉄筋コンクリート管	250	10.15	
RB-245	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	260	17.05	反転・形成工法
RD-246	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	300	42.70	90°砂基礎(ii)
RD-247	布設替管渠	-	鉄筋コンクリート管	450	47.45	梯子胴木(B形)基礎 B形 1種管
RD-248	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	250	25.85	90°砂基礎(ii)
RD-249	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	300	34.40	90°砂基礎(ii)
RB-250	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	430	25.60	製管工法
RB-251	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	410	45.75	製管工法
RB-252	更生管渠	1959	鉄筋コンクリート管	410	36.30	製管工法
RD-253	布設替管渠	-	硬質塩化ビニル管	250	45.95	90°砂基礎(ii)
RA-254	既設活用管渠	1968	鉄筋コンクリート管	250	22.90	
RB-255	更生管渠	1937	鉄筋コンクリート管	260	34.50	反転・形成工法
RB-256	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	410	3.25	製管工法
RB-257	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	490	15.70	製管工法
RB-258	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	490	10.15	製管工法
RB-259-1	更生管渠	1958	鉄筋コンクリート管	630	12.15	製管工法
RB-259-2	更生管渠	1958	鉄筋コンクリート管	630	10.50	製管工法
RB-260	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	630	22.00	製管工法
RB-261	更生管渠	1962	鉄筋コンクリート管	720	15.35	製管工法
RB-262	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	290	36.00	反転・形成工法
RB-263	更生管渠	1936	鉄筋コンクリート管	410	34.00	製管工法
RD-264	布設替管渠	-	鉄筋コンクリート管	450	34.05	梯子胴木(B形)基礎 B形 1種管
RD-265	布設替管渠	-	鉄筋コンクリート管	500	42.05	梯子胴木(B形)基礎 B形 1種管
RD-266	布設替管渠	-	鉄筋コンクリート管	600	40.20	梯子胴木(B形)基礎 B形 2種管
RD-267	布設替管渠	-	鉄筋コンクリート管	600	69.90	梯子胴木(B形)基礎 B形 2種管
RB-268	更生管渠	1956	鉄筋コンクリート管	910	10.20	製管工法
RB-269	更生管渠	1956	鉄筋コンクリート管	1080	12.40	製管工法
合計					1237.65	

工事内管渠番号表(撤去管)						
路線番号	区分	施工年度	管種	管径(mm)	延長(m)	工事内容
RE-231	撤去管	1936	陶管	230	30.00	
RE-232	撤去管	1937	陶管	230	30.20	
RE-237	撤去管	1936	陶管	230	29.95	
RE-246	撤去管	1936	陶管	280	42.70	
RE-247	撤去管	1937	陶管	410	47.45	
RE-248	撤去管	1936	陶管	230	25.85	
RE-249	撤去管	1936	陶管	280	34.40	
RE-253	撤去管	1937	陶管	230	45.95	
RE-264	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	34.05	
RE-265	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	42.05	
RE-266	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	40.20	
RE-267	撤去管	1936	鉄筋コンクリート管	490	69.90	
合計					472.70	

図 2-5-9 工事内管きよ番号表の様式

b) 工事内管きょ番号表は、図2-5-10に示す情報行（路線番号・管渠の種類・施工年度・管種・内径または外径・延長・基礎種類・継手形状・管渠強度・更生工法）、集計行（合計延長）により構成される。

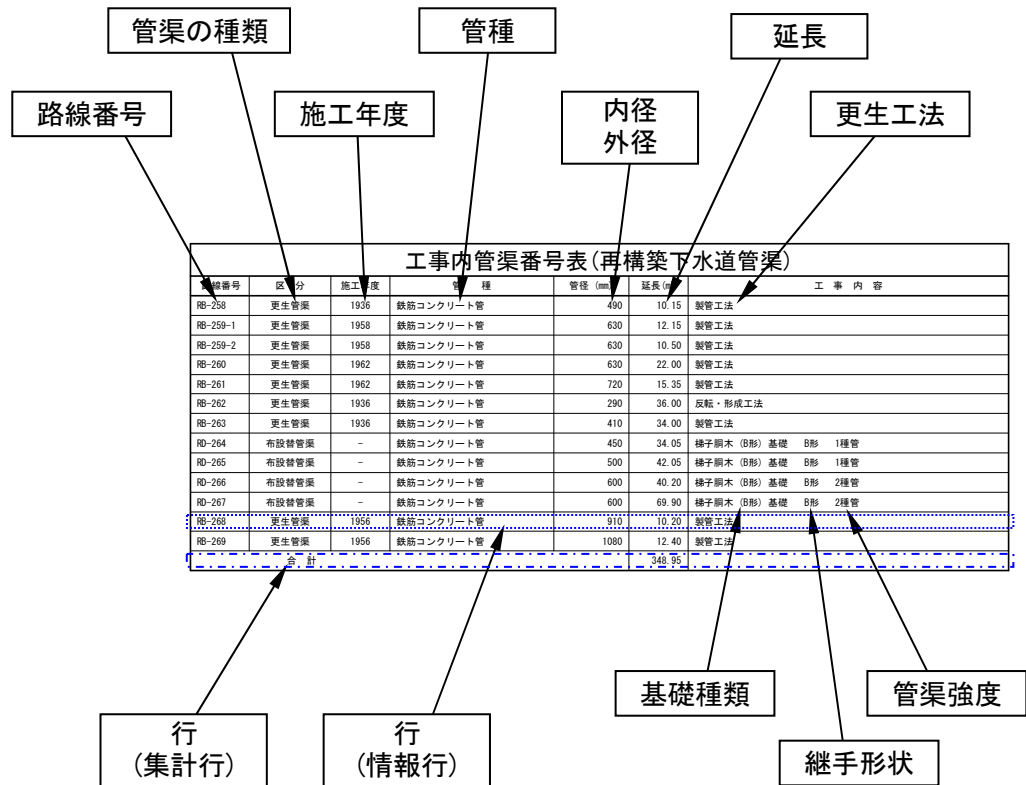


図 2-5-10 工事内管きょ番号表の概要図

c) 15種類に分類する「管渠の種類」は、設置区分、布設替の有無および管渠機能により、表2-5-1とする。

#### 2.5.4 工事内人孔番号表

1. 工事内人孔番号表は、データ交換用電子平面図内の人孔を基に作成する。
2. 工事内人孔番号表は、既設活用、改造または新設された再構築人孔による工事内人孔番号表、撤去された撤去人孔による工事内人孔番号表の2タイプを作成する。
  - 1) 工事内人孔番号表は、データ交換用電子平面図に記載されている人孔の属性情報を基に、CADソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) CADソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、工事内人孔番号表内の文字は全て横書きとする。
3. CADソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CADソフトウェアにより、SXF(レベル2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
4. 工事内人孔番号表には、人孔番号、人孔の目的(区分)、人孔形状、登録人孔番号(SEMISで管理する施設番号)、人孔深および工事内容を記載する。
  - 1) 工事内人孔番号表は、一行にひとつの人孔の情報を記載することにより、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。
5. 工事内人孔番号表には、縦断面図(線路詳細図)の簡素化に伴い、従来、縦断面図(線路詳細図)に記述していた人孔に関する工事内容を記載する。
  - 1) 工事内人孔番号表に記載する工事内容は、人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造および転落防止ネットに関する情報を記載する。
  - 2) 人孔毎に工事内容を記載することにより、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。



【解説】

a) 工事内人孔番号表の様式を、図2-5-11に示す。

工事内人孔番号表(再構築人孔)					
人孔番号	区分	人 孔 形 状	SEMS番号	人孔深(m)	工 事 内 容
MB-1	改造	円形人孔内径90	19172C004	1.48	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 3本 既設インバート改造
MB-2	改造	円形人孔内径90	19172C005	1.57	既設インバート改造
MD-3	新設	組立円形人孔内径90	19172C125	2.05	組立マンホール
MD-4	新設	組立円形人孔内径90	19172D117	2.04	組立マンホール
MD-5	新設	組立円形人孔内径90	19172D118	1.92	組立マンホール
MD-6	新設	組立円形人孔内径120A	19172D119	2.35	組立マンホール
MD-7	新設	組立円形人孔内径120A	19172D120	2.37	組立マンホール
MB-8	改造	円形人孔内径90	19173C013	1.55	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 3本
MB-9	改造	円形人孔内径90	19173C018	1.63	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 3本
MD-10	新設	組立円形人孔内径90	19172C124	1.75	組立マンホール
MB-11	改造	円形人孔内径90	19172C018	1.66	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 3本
MB-12	改造	円形人孔内径90	19172C019	1.93	人孔防食工(焼却灰有) 鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 4本
MB-13	改造	円形人孔内径90	19172C020	1.98	人孔防食工(焼却灰有) 鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 4本
MB-14	改造	円形人孔内径90	19172C021	2.12	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 4本 斜壁取替
MB-15	改造	円形人孔内径90	19172D002	2.35	既設インバート改造
MD-16	新設	組立円形人孔内径90	19172D123	2.43	組立マンホール
MD-17	新設	組立円形人孔内径90	19173C121	2.55	組立マンホール
MD-18	新設	組立円形人孔内径90	19173C122	2.67	組立マンホール
MD-19	新設	組立円形人孔内径90	19173C123	2.56	組立マンホール
MD-20	新設	組立円形人孔内径90	19173C124	2.61	組立マンホール
MD-21	新設	組立円形人孔内径90	19173D111	2.75	組立マンホール
MD-22	新設	組立円形人孔内径90	19173D112	2.83	組立マンホール
MB-23	改造	円形人孔内径120丙	19172D004	3.05	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 6本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-24	改造	円形人孔内径120丙	19172D005	3.12	人孔防食工(焼却灰有) 足掛人力取替 6本 既設インバート改造
MB-25	改造	矩形人孔内法120×90	19172D012	3.17	人孔防食工(焼却灰有) 足掛人力取替 6本 既設インバート改造
MB-26	改造	円形人孔内径120丙	19172D016	3.06	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 6本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-27	改造	円形人孔内径120丙	19173C009	3.26	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 7本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-28	改造	矩形人孔法210	19173C011	3.32	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 7本 既設インバート改造
MD-29	新設	組立円形人孔内径120A	19172D121	3.18	組立マンホール
MD-30	新設	組立円形人孔内径120A	19172D122	3.24	組立マンホール
MB-31	改造	円形人孔内径120丙	19172C007	3.52	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 7本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-32	改造	円形人孔内径120丙	19172C008	3.73	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 8本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-33	改造	円形人孔内径120丙	19172C009	3.69	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 7本 斜壁取替
MB-34	改造	円形人孔内径90	19172C013	3.83	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 8本 斜壁取替
MB-35	改造	円形人孔内径150丙	19172C014	3.97	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 8本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-36	改造	円形人孔内径150丙	19172C015	4.03	鉄蓋(内径60cm) 取替 足掛人力取替 8本 斜壁取替 既設インバート改造
MB-37	改造	円形人孔内径200	19172C016	4.11	人孔防食工(焼却灰有) 足掛人力取替 9本 転落防止ネット付
MB-38	改造	円形人孔内径200	19172C017	4.26	人孔防食工(焼却灰有) 足掛人力取替 9本 転落防止ネット付
MB-39	改造	矩形人孔内法260	19173D013	4.53	形成工法 足掛人力取替 10本 斜壁取替 転落防止ネット付

工事内人孔番号表(撤去人孔)					
人孔番号	区分	人 孔 形 状	SEMS番号	人孔深(m)	工 事 内 容
ME-3	撤去	円形人孔内径90	19172C025	2.07	
ME-4	撤去	円形人孔内径90	19172D017	2.06	
ME-5	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D018	1.95	
ME-6	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D019	1.93	
ME-7	撤去	円形人孔内径120丙	19172D020	2.01	
ME-10	撤去	円形人孔内径90	19172C024	1.65	
ME-16	撤去	円形人孔内径90	19172D023	2.21	
ME-17	撤去	円形人孔内径90	19173C021	2.39	
ME-18	撤去	円形人孔内径90	19173C022	2.59	
ME-19	撤去	円形人孔内径90	19173C023	2.51	
ME-20	撤去	円形人孔内径90	19173C024	2.55	
ME-21	撤去	円形人孔内径90	19173D011	2.63	
ME-22	撤去	円形人孔内径90	19173D012	2.73	
ME-29	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D021	2.95	
ME-30	撤去	楕円形人孔内法120×90	19172D022	3.23	

図 2-5-11 工事内人孔番号表の様式

b) 工事内人孔番号表は、図2-5-12に示す情報行による人孔番号、人孔の目的、人孔形状、登録人孔番号、人孔深、人孔製品名、更生工法、防食補修工法、人孔蓋、足掛金物、斜壁交換、インバート改造および転落防止ネットにより構成される。

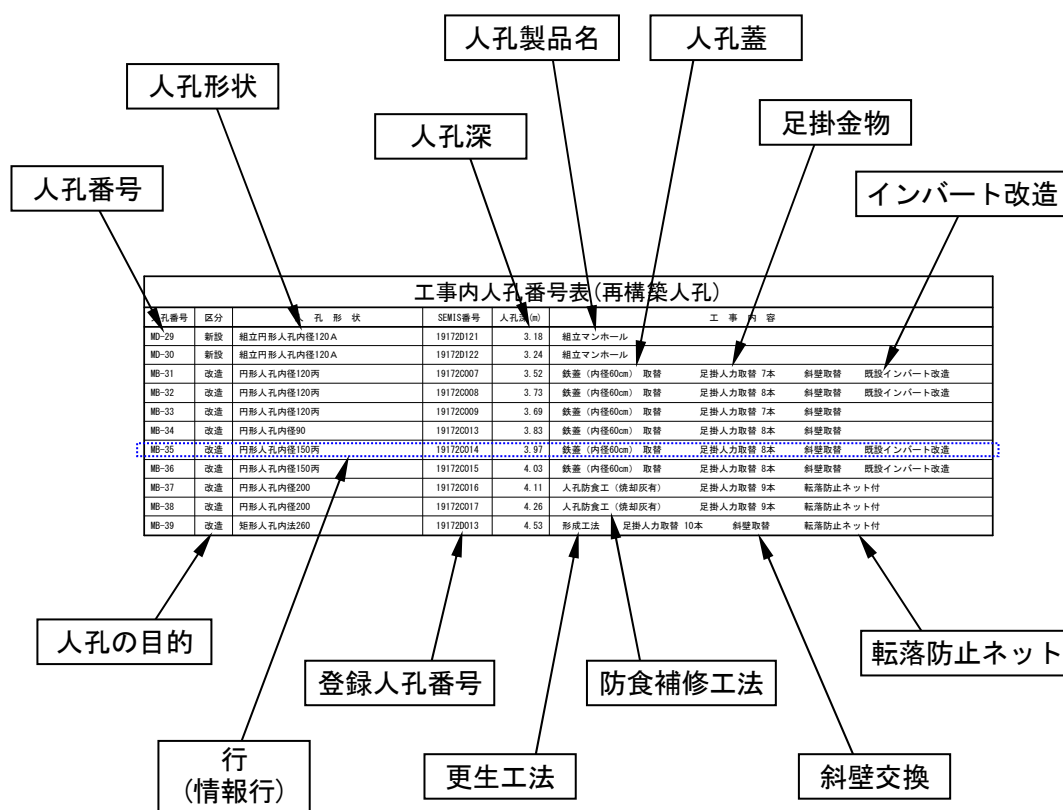


図 2-5-12 工事内人孔番号表の概要図

c) 「人孔の目的」は、設置区分により、表2-5-3とする。

表 2-5-3 人孔の目的

コード	人孔の目的	設置区分
1	既設	既設活用
2	改造	修正(改造)
3	新設	新設
5	撤去	撤去

## 2.5.5 柵・取付管一覧表

1. 柵・取付管一覧表は、平面図(線路詳細図)の簡素化に伴い、新たに追加した帳票とし、データ交換用電子平面図内の柵および取付管を基に作成する。
2. 柵・取付管一覧表は、既設活用、改造、新設、撤去・新設または撤去された柵(汚水柵または雨水柵)、既設活用、修正(更生)、新設、布設替えまたは撤去された取付管により作成する。
3. 柵・取付管一覧表は、分流地区汚水柵または合流地区汚水柵に設定されている汚水柵および取付管による汚水柵・取付管一覧表、柵用途区分を分流地区雨水柵、合流地区雨水柵または雨水浸透柵に設定されている雨水柵および取付管による雨水柵・取付管一覧表の2タイプを作成する。
  - 1) 柵・取付管一覧表は、データ交換用電子平面図に記載されている柵および取付管の属性情報を基に、CADソフトウェアにより自動作成する。
  - 2) CADソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、柵・取付管一覧表内の文字は全て横書きとする。
4. CADソフトウェアにより自動作成する作図項目の内、基本的な名称および数値については、データ交換用電子平面図の図形および属性情報と、整合性の確認が出来る属性情報を保持するものとする。
  - 1) 整合性の確認が必要な図形(基本的な名称および数値)に対して、CADソフトウェアにより、SXF(レベル2 Ver.3.0)に基づき属性情報を付加する。
5. 柵・取付管一覧表は、図面番号、接続施設(路線番号、人孔番号または柵番号)、接続位置、占用幅、柵情報(柵番号、既設柵形状、新設柵形状、柵深さ、工事内容)および取付管情報(既設内径、既設管種、新設内径、新設管種、工事内容)を記載する。
  - 1) 柵・取付管一覧表は、一行にひとつの柵および取付管の情報を記載することにより、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。
  - 2) 柵・取付管一覧表に記載する柵の工事内容は、柵の施工区分に関する情報を記載し、取付管の工事内容は、取付管の施工区分および延長に関する情報を記載する。
  - 3) 柵毎または取付管毎に工事内容を記載することにより、データ交換用電子平面図の図形および属性情報との整合性の確認および図面間の自動チェックを容易にする。

【解説】

a) 柵・取付管一覧表の様式を、図2-5-13に示す。

図面 番号	人孔番号 又は 路線番号	接続 位置 (m)	占用幅 (m)	汚水 樹				取付管							
				樹番号	樹の種類		樹深さ (m)	工事内容	既設		新規又は布設替え		工事内容		
					既設	新規又は取替え			管径	管種	管径	管種			
2/12	RD-231	1.25	2.00	1A	汚水樹L型幅30		0.80		撤去・新設	150	陶管				
2/12	RD-231	3.45	2.10	2D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10 新設L=2.25		
2/12	RD-231	16.00	2.00	3E	汚水樹L型幅30		1.10	撤去	150	陶管			撤去 L=2.00		
2/12	RD-231	19.50	3.15	4C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.15		
2/12	MB-22	0.00	1.25	5A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
2/12	RD-232	4.25	3.95	6D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.95		
2/12	RD-232	4.30	3.25	7A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
2/12	RD-232	12.50	2.20	8C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20		
2/12	RD-232	13.55	2.20	9C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20		
2/12	RD-232	16.50	2.00	10A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
3/12	RB-233	1.30	3.15	11D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=2.10		
3/12	RB-233	1.45	1.25	12A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
3/12	RB-233	6.40	3.95	13C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.95		
3/12	RB-233	7.55	3.25	14C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.25		
3/12	RB-234	1.75	2.20	15A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
3/12	RB-234	2.00	2.20	16A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
3/12	RB-234	12.55	2.20	17A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20		
3/12	RB-234	19.55	2.00	18A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
3/12	MC-31	0.00	3.15	19D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.15		
4/12	RB-235	4.35	1.25	20D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25		
4/12	RB-235	5.50	3.95	21A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95		
4/12	RB-235	15.65	3.25	22D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	1.10	撤去・新設	150	陶管	130	反転・形成工法	改良 L=3.25		
4/12	RB-235	18.25	2.20	23A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20		
4/12	RB-235	21.60	2.20	24A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
4/12	RB-235	26.20	2.20	25C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.20		
4/12	RD-236	9.55	2.00	26C		小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.00		
4/12	RD-236	12.55	3.15	27A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
4/12	RD-237	2.75	1.25	28A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
4/12	RD-237	12.85	3.95	29A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
5/12	RD-238	2.35	3.25	30D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25 新設L=3.40		
5/12	RD-238	4.45	2.20	31D	汚水樹L型幅30	小型汚水樹縦型(歩道用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.35		
5/12	RD-238	16.15	2.20	32A	汚水樹内径50		0.80		150	陶管					
5/12	RD-238	16.95	2.20	33A	汚水樹内径70		0.80		150	陶管					
5/12	RD-238	29.75	2.20	34A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20		
5/12	RD-239	1.25	2.20	35A	汚水樹L型幅30		0.80		150	陶管					
5/12	RD-239	1.95	2.00	36C		小型汚水樹縦型(車道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=2.00		
5/12	RD-239	12.65	3.15	37C		小型汚水樹縦型(車道用)	0.80	新設			150	硬質塩化ビニル管	新設 L=3.15		
5/12	RD-239	19.35	1.25	38A	汚水樹内径50		0.80		150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25		

図面 番号	人孔番号 又は 路線番号	接続 位置 (m)	占用幅 (m)	雨水 樹				取付管					
				樹番号	樹の種類		樹深さ (m)	工事内容	既設		新規又は布設替え		工事内容
					既設	新規又は取替え			管径	管種	管径	管種	
2/12	RD-231	2.20	2.00	39D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00
2/12	RD-231	3.35	2.10	40D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10
2/12	RD-231	16.95	2.00	41D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00
2/12	RD-231	17.50	3.15	42D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
2/12	RD-232	5.50	3.95	43D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
2/12	RD-232	5.85	3.25	44D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
2/12	RD-232	15.55	2.20	45D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
2/12	RD-232	16.55	2.20	46D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
3/12	RB-233	2.35	3.15	47D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
3/12	RB-233	3.15	1.25	48D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
3/12	RB-233	8.50	3.95	49D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
3/12	RB-233	8.95	3.25	50D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
3/12	RB-234	15.55	2.20	51D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.05
3/12	RB-234	16.15	2.00	52D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00 新設L=1.80
4/12	RB-235	3.15	1.25	53D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
4/12	RB-235	3.90	3.95	54D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
4/12	RB-235	16.95	3.25	55D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25
4/12	RB-235	17.35	2.20	56D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RB-235	24.35	2.20	57D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RB-235	25.15	2.20	58D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
4/12	RD-236	10.05	2.00	59D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.00 新設L=1.85
4/12	RD-236	10.95	3.15	60D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15 新設L=2.95
4/12	RD-237	5.40	1.25	61D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25
4/12	RD-237	6.20	3.95	62D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.95
5/12	RD-238	3.05	3.25	63D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.25 新設L=3.10
5/12	RD-238	3.70	2.20	64D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-238	14.55	2.20	65D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-238	15.20	2.20	66D	市30	浸透雨水樹内径50	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20 新設L=2.00
5/12	RD-239	3.20	2.20	67D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.20
5/12	RD-239	3.90	2.00	68D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=2.10
5/12	RD-239	14.25	3.15	69D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=3.15
5/12	RD-239	15.15	1.25	70D	市30	浸透雨水樹(L型用)	0.80	撤去・新設	150	陶管	150	硬質塩化ビニル管	布設替え 撤去L=1.25

図 2-5-13 柵・取付管一覧表の様式

b) 樹・取付管一覧表は、図2-5-14に示す情報行による図面番号、接続設計番号、接続位置、占用幅、樹番号、既設樹形状、新設樹形状、樹深さ、樹施工区分、既設内径、既設管種、新設内径、新設管種、更生工法および取付管施工区分により構成される。

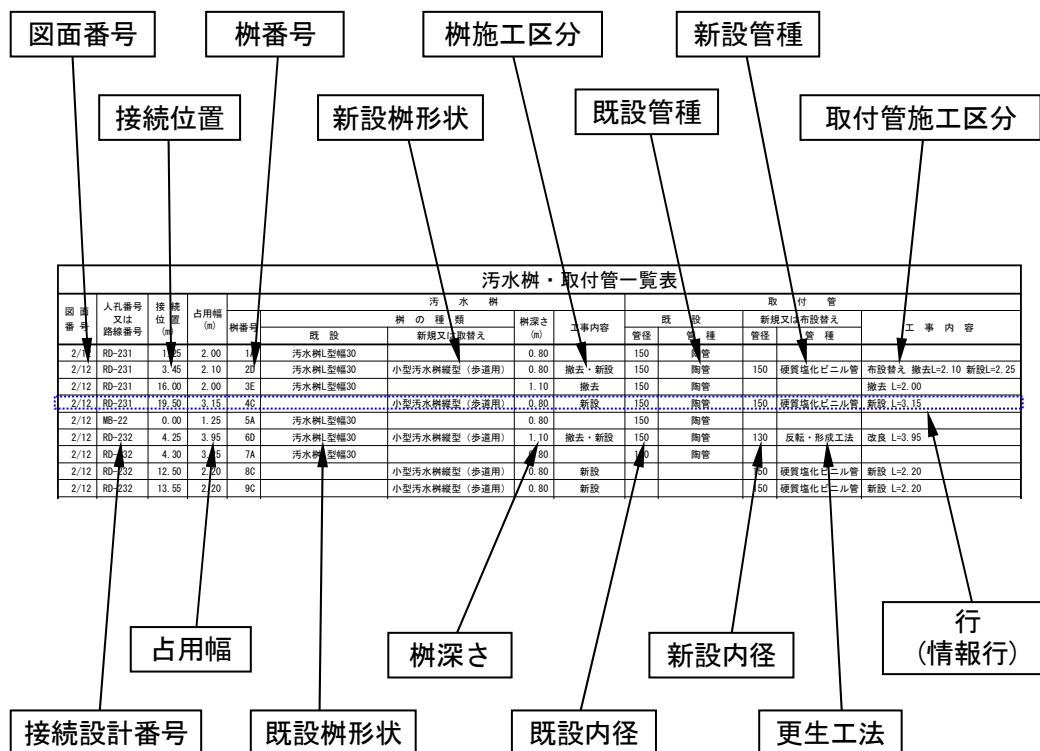


図 2-5-14 樹・取付管一覧表の概要図

c) 「樹施工区分」は、設置区分および布設替の有無により、表2-5-4とする。

表 2-5-4 樹施工区分

コード	樹施工区分	設置区分	設置替
1	—	既設活用	—
2	改造	修正(改造)	—
3	新設	新設	無
4	撤去・新設	新設	有
5	撤去	撤去	—

d) 「取付管施工区分」は、設置区分および布設替の有無により、表2-5-5とする。

表 2-5-5 取付管施工区分

コード	取付管施工区分	設置区分	布設替
1	—	既設活用	—
2	改良	修正(更生)	—
3	新設	新設	無
4	布設替え	新設	有
5	撤去	撤去	—

## 2.6 タイトル

### 2.6.1 表題欄

1. 国土交通省の CAD 製図基準(案)に準拠した表題欄に変更し、図面の輪郭内に配置する。
  - 1) CAD ソフトウェアにより文字を縦書きに配置した場合、文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、表題欄内の文字は全て横書きとする。
2. 表題欄は、東京都下水道局と設計（工事）内容を記載する表題欄-1、受託（受注）業者を記載する表題欄-2、決済印を記載する表題欄-3 で構成する。
  - 1) 表題欄-1 に記載する決定（完了）日、承認印は、1 枚目の図面（図面番号に[1]を設定した図面）のみ記載する。
  - 2) 決済印を記載する表題欄-3 は、2 枚目以降の図面（図面番号に[2]以降を設定した図面）に記載する。
3. 表題欄は、輪郭線の図面の右下隅輪郭線に接して記載する。

#### 【解説】

- a) 表題欄の様式を、図2-6-1に示す。

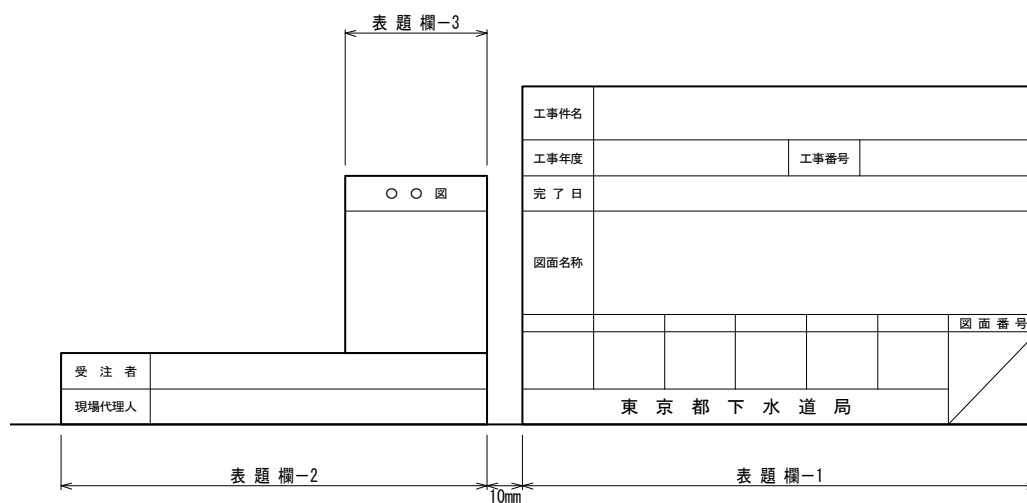


図 2-6-1 表題欄の様式

## 2.6.2 占用番号

1. 占用番号内の文字は、CAD ソフトウェアにより文字を縦書きに配置すると文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、全て横書きとする。
2. 占用番号には、占用者名、占用番号、工期および道路管理別の占用許可番号・占用許可年月日を記載する。

### 【解説】

- a) 占用番号の様式を、図2-6-2に示す。

占用者名 <b>東京都下水道局</b> ○○下水道事務所 工事第○課 工事第○係		
下水道番号	1917	
都道番号	44-55	
都道整理番号	特-405	
国道番号	-	
工期	(自)	2009年10月 7日
	(至)	2010年 5月28日
区道	占用許可番号	21新環管企第○号
	占用許可年月日	2009年 8月28日
都道	占用許可番号	21三建管ゲ第○号
	占用許可年月日	2009年 9月26日

図 2-6-2 占用番号の様式

## 2.6.3 水準基標

1. 水準基標の文字は、CAD ソフトウェアにより文字を縦書きに配置すると文字の中心が揃わないなどの不具合がでるため、全て横書きとする。
2. 水準基標には、取材地(区、町名、目標)、真高および備考を記載する。
3. 水準基標は、系統図の左下付近に配置する。

### 【解説】

1. 水準基標の様式を、図2-6-3に示す。

水準基標		
所在地	区	新宿
	町名	○○○町○丁目○○
	目標	○○銀行脇
真高	(m)	11.9358
備考		東京湾平均海面

図 2-6-3 水準基標の様式



### 3. 業務履歴管理データ

1. 業務履歴管理データは、データ交換用電子平面図の図形(幾何図形)または属性情報(属性付加機構)に記載が出来ない設計、工事、工事完了等の各作業工程間に必要な情報を記載し、データリサイクルを実現する管理データとする。
2. 業務履歴管理データには、作業状況、各作業工程での発注者および請負者情報、図面情報、舗装変更情報、既設確認情報、施設番号情報を記載する。
  - 1) 作業状況は、設計、工事、工事完了等の各作業工程による作業進捗区分および作成された図面のデータ交換標準仕様定義の定義年度を記載する。
  - 2) 発注者および請負者情報は、設計発注者、設計請負者、工事発注者、設計変更、工事請負者、完了検査に関する情報を記載する。
  - 3) 図面情報は、納品された図面の総数および各図面の図面名称、ファイル名、図面番号等に関する情報を記載する。また、線路詳細図の場合は、縦断図に作図した路線の割付に関する情報も合わせて記載し、CAD ソフトウェアにより自動作成された線路詳細図との整合性の確認が出来る情報を保持するものとする。
  - 4) 舗装変更情報は、標準の舗装構成から変更する舗装種別および変更箇所、変更内容等に関する情報を記載する。
  - 5) 既設確認情報は、「SEMIS」から切出しされた既設施設に対して、現地で確認が出来ない、データ交換用電子平面図より削除された既設施設に関する情報を記載する。
  - 6) 施設番号情報は、工事完了時の作業工程で、データ交換用電子平面図内の人孔の図形および属性情報を基に、CAD ソフトウェアにより自動設定された登録人孔番号 (SEMIS で管理する施設番号)に関する情報を記載する。



平成 18 年 3 月作成  
平成 22 年 12 月改定  
平成 24 年 3 月改定  
平成 25 年 3 月改定  
平成 29 年 3 月改定  
平成 31 年 3 月改定  
令和 2 年 3 月改定

## 図面の簡素化

編集 東京都下水道局計画調整部技術開発課  
東京都下水道局施設管理部管路管理課  
東京都下水道局建設部設計調整課  
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話 03-5320-6604(計画調整部技術開発課)  
03-5320-6615(施設管理部管路管理課)  
03-5320-6652(建設部設計調整課)

本書の全部又は一部を無断で複写(コピー)及び転載することは、  
著作権法上での例外を除き、禁じられています。